

認知症の人と共に生きる地域づくり（倉敷市モデル）の推進（2020年度）

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるように地域包括ケアシステム構築を目指す中で、今後増加が見込まれる認知症の人に対する対策を強化。認知症初期集中支援チームの設置を通じて早期対応を強化するなど認知症の人を地域で支える地域づくりを推進する。（倉敷市モデルの創設）

① 認知症のことを知り、予防する

※「予防」…認知症になるのを遅らせる

- 認知症サポーターの養成の推進（充実・強化）
認知症についての正しい知識と理解を持ち、地域での見守り等を担う認知症サポーターの養成を推進する。
- 認知症の啓発事業の推進
他の分野と連携し、認知症に対する理解や予防の取組、早期発見するための知識の普及啓発を図る。
- 認知症予防教室や地域の通いの場の充実
介護予防の取組の中で認知症予防教室を開催するとともに、高齢者の参加の場を拡大し、認知症予防につなげる。
- 当事者からの発信支援
認知症の本人やその家族の声を聴く場・発信する場の充実。

③ 認知症の人に早期に対応し、適切な支援を提供する

- 認知症初期集中支援チームの支援推進
認知症が疑われる人等に対して訪問し、適切な支援につなげる医療・介護の専門職からなる認知症初期集中支援チームを設置し、早期対応を強化する。
- 認知症身元不明高齢者一時保護事業
ひとり歩き等で警察に保護された認知症高齢者・若年性認知症の方のうち、身元不明で警察から保護依頼があった方を一時保護する。
- 認知症の事例検討会の実施
認知症疾患医療センターと連携して、ケアマネジャーなど多職種が参加する事例検討会を実施し、認知症対応能力を向上を図る。
- 認知症ケアパスの普及
認知症の状況の応じた適切なサービス提供の流れを示す認知症ケアパスの普及を推進する。

② 認知症の人と共に生きる地域をつくる

- 認知症カフェの推進（充実・強化）
認知症の人やその家族、地域住民が集い、悩みや困りごとを共有する場として認知症カフェの運営を推進する。
- 認知症マイスターの養成
認知症サポーター養成講座受講者を、地域の中で認知症の方への具体的な支援を行う、支援者として養成する。
- 地域の見守りの取組の強化
小学校区で実施されている小地域ケア会議などを活用し、地域での見守り体制を強化。地域の企業等と見守り協定の締結。
- 倉敷市安心おかえりシールによる見守り
認知症などで見守りが必要な高齢者等の安全を確保するとともに介護者等の負担の軽減につなげる。
- 認知症の事例検討会の実施
認知症疾患医療センターと連携して、ケアマネジャーなど多職種が参加する事例検討会を実施し、認知症対応能力を向上を図る。
- 成年後見制度の利用の推進
後見人の報酬について資力が乏しく、困難な場合に補助を行う。
- チームオレンジの整備
認知症マイスター等を認知症当事者の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組みの構築
- 地域ケア会議の推進
認知症の人の対応等個別ケースを地域の関係者が検討するミニ地域ケア会議を推進し、情報共有を進め早期に適切な支援につなぐ
- 認知症地域支援推進員の活動推進
効果的な支援を行うため、認知症疾患医療センター、医療機関、介護サービス事業所などとのコーディネートを行う。